

Sustainability Action

2023年11月

SEIBU SOGO

【そごう・西武 各店】

途上国の母子（おやこ）に希望を贈る ホワイトリボン ピンバッジを販売

2020年のWHO(世界保健機構)の統計によると、妊娠出産で命を落とす女性は年間で約28万7千人。1日に約800人、2分にひとりの母親が亡くなっています。また、母親を亡くした乳児の多くも死亡しており、全妊婦死亡の約70%がサハラ以南のアフリカで発生しています。そごう・西武では、このような途上国のお母さんや赤ちゃんの命を救う活動などを行っている「ホワイトリボン運動」に賛同し、2013年より毎年クリスマスの時期に合わせ、「オリジナルホワイトリボン ピンバッジ」を製作・販売し、国際協力NGOジョイセフを通じて、その収益の全額を途上国でのマタニティハウス(*)建設などの活動支援のために寄付しています。2013年から2022年までの寄付金額は、全店総計で3,132,700円となりました。そごう・西武ではこれからも、お客さまやお取引先、学校、企業、NPOなどがつながる仕組みや場を提供することで、SDGsが目標とする「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。



■そごう・西武オリジナル「ホワイトリボン ピンバッジ」

そごう・西武オリジナルの「ホワイトリボン ピンバッジ」は、毎年のテーマに沿って異なるデザインで製作しています。

本年は、創立55周年を迎えた国際協力NGOジョイセフが「予防」の観点で集中的に取り組む5年間のプロジェクト、「GOGO(ゴーゴー)グローバルチャレンジ」と連動し、バッジの中央には、スタート1年目のテーマである「子宮頸がん(しきゅうけいがん)への対策」を表わすティールカラーをイメージした色石(いろいし)をあしらいました。

*マタニティハウス

出産する病院や保険施設までの距離が遠く、お産に間に合わずに自宅の不衛生な環境で出産して命を落とすケースを防ぐため、陣痛が来る前に病院や保険施設の近くでお産のための待機するための施設のこと。



出産を控えた妊婦さんたちは、マタニティハウスで安心・安全に過ごします。

この取り組みにより、国連で定めたSDGsの目標

3・5・10・17の達成に貢献します。

